

算 額

江戸時代の数学を和算と言います。和算の問題を絵馬にし、神社仏閣に奉納したものを算額と言います。寛文年間の頃から始まった風習といわれ、現在全国に900～1000面の算額が存在しています。算額は数学の問題が解けたことを神仏に感謝し、益々勉学に励むことを祈願して奉納されたと思われます。算額奉納の習慣は世界に例を見ない、日本独自の数文化です。

和算書『続神壁算法』には、寛政11年(1799)4月に大西佐兵衛義全がこの芝増上寺へ算額を奉納したことが記されています。ここに揚げた算額は前書に基づいて復元したものです。

奉納者大西佐兵衛は松山藩家老水野家の用人で、関流和算家丸山良玄に学び、『雑題』と題する稿本30冊を残している。